



帰宅困難者のための物資を運ぶ手順を確認する大学生Ⅱ世田谷区

## 大学生ら首都直下地震想定し訓練

阪神大震災から23年になるのを前に玉川署は16日、世田谷区の東急二子玉川駅周辺で、管内の駒沢、日本体育、東京都市の各大学生と首都直下地震を想定した防災訓練を実施した。

参加した約30人の学生は、駅にあふれることが予想される帰宅困難者のための飲料などを運ぶ手順を確認。大規模停電で信号機が機能しなくなった際の手

信号による歩行者の誘導なども体験した。

田賀博幹署長は「災害が発生すると、警察や消防だけの力では限界がある。頼りになるのは皆さんのようなボランティアの若い力だ」とあいさつ。駒沢大2年の大橋昂暁さん(20)は「この経験を生かし、いざというときは力になりたい」と話した。

二子玉川駅周辺

※朝日新聞 2018年1月17日掲載（転載承認済、承諾書番号 18-0199）

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。